

トピックス

※トピックス記事の中には、議会のホームページで詳しく掲載しているものもありますので、ぜひ、ご覧ください。

東九州自動車道4車線化に係る中央要望

2月1日、井上順吾議長は、県土整備委員会の吉村悠委員長、片岡誠二副委員長らとともに国土交通省を訪問し、東九州自動車道（苅田北九州空港IC～中津IC）の4車線化の早期事業化中央要望活動を行いました。

東九州自動車道は、平成28年4月に北九州市から宮崎市間の広域開通後、人や物の流れが格段に活発化しているところですが、県内区間の約8割が暫定2車線となっていることから、井上議長は、「死亡事故率



国土交通省の森事務次官（左から2番目）への要望の様子

も2倍となっており、災害時等には資機材や生活物資の輸送ルートとしての重要な役割が果たせていないなど課題も多く、命を守る緊急性からも、早急に東九州自動車道の4車線化を実現していただきたい」と要請しました。

ふくおか“きずな”フェスティバル

2月17日、春日市のクローバープラザにおいて「ふくおか“きずな”フェスティバル」開会式が行われ、井上順吾議長と原中誠志厚生労働環境委員長が出席しました。

井上議長は、「地域における人と人とのつながりが希薄になっている現在、年齢や障がいの有無等に関係なく誰もが安心していきいきと生活できる社会にしていけるためには、互いに支え合い、助け合う『絆』の精神が今後ますます重要



となってきます。このフェスティバルを契機として高齢者や障がい者への支援、子育て支援などのボランティア活動がさらに活発になっていくことを期待しています」と挨拶しました。

駐日ベトナム特命全権大使が表敬訪問

1月30日、ヴァー・ホン・ナム駐日ベトナム特命全権大使が県議会を訪問され、井上順吾議長、畑中茂広副議長をはじめ、各会派の代表者並びに福岡県ベトナム友好議員連盟の役員らが出迎え、訪問を歓迎しました。

井上議長は、「2008年にハノイ市と福岡県が友好提携を締結し、環境、青少年育成、経済など幅広い分野で交流を深めて参りました。県議会では福岡県ベトナム友好議員連盟を中心に両地域の交流を一層充実させて参ります」と挨拶しました。

ナム大使は、「福岡県議会議員の皆様のご尽力により、福岡県とハノイ市の間で緊密な関係を構築することができ、その関係が日本とベトナムの関係の発展に貢献していると感じています。心よりお礼申し上げます。福岡県は常にベトナムの若者にとって魅力的な留学先として知られており、さらに多くの留学が見込まれています。引き続きご尽力を頂ければ幸いです」と述べられました。



前列中央がヴァー・ホン・ナム駐日ベトナム特命全権大使

暴力団追放！地域決起会議（福岡地区）

1月29日、春日市ふれあい文化センターにおいて、福岡地区の「暴力団追放！地域決起会議」が開催され、井上順吾議長をはじめ、堤かなめ県民生活商工委員長、警察委員会の松尾嘉三委員長、渡辺勝将副委員長など多くの議員が出席しました。

井上議長は、「福岡県における暴力団壊滅に向けた機運がかつてないほど高まっていますが、一方で、暴力団によるものとみられる未解決重要事件が数多く残されており、暴力団の存在が県民の皆様の安全・安心に大きな脅威となっております。県では、平成28年3月に、暴力団排除条例の3度目となる改正を行うとともに、国に対して新たな捜査手法の導入などを要望してきました。本県の暴力団排除に向けた取り組みと、県警察による取締りが今後さらに進むことを期待しています」と挨拶しました。その後、講演と暴力団追放宣言が行われ、最後に参加者全員での暴力団追放シュプレヒコールを行いました。



福岡県宗像児童相談所落成記念式典

福岡県宗像児童相談所の新庁舎が完成し、1月26日に落成記念式典が開催されました。式典には、井上順吾議長をはじめ原中誠志厚生労働環境委員長、井上博隆こども・子育て支援調査特別委員長など多くの議員が出席しました。

井上議長は、「児童虐待防止法が施行され来年で20年を迎えますが、子どもたちが犠牲となる痛ましい事件は今も後を絶ちません。虐待に関する相談件数は増え続けていることから、県議会では、一日も早い機能強化・充実を取り上げてきました。新年度からは、この新たな庁舎において、一時保護所の業務を開始され、相談室等の充実と併せ、ワンストップ体制が確立されます。県議会としましても、次代を担う子どもたちが幸せに暮らせるよう、今後とも鋭意努めて参る所存です」と挨拶しました。



有明海沿岸インフラ整備3県議会連絡会議総会

2月6日、「有明海沿岸インフラ整備3県議会連絡会議」の総会が福岡市で開催され、井上順吾議長や同連絡会議会長の井上忠敏議員ら関係者が出席しました。

来賓として出席した井上議長は、「有明海沿岸道路については、福岡県の区間は概ね整備が進んでいますが、大川東インターから鹿島市にかけて、未整備の区間がまだ多く、大牟田市から熊本市までは未だ事業化されていない状況であります。九州では、近年、地震や豪雨災害など大きな災害に見舞われており、災害時に備えるという観点からも、有明海沿岸道路は『命の道』として重要な役割を担うものであり、これらは全線が開通して初めて効果が発揮されます。県議会としましても、有明海沿岸道路の全線開通、将来的な4車線化に向け、全力で支援してまいります」と挨拶しました。

